



～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2017 年 夏号
第 90 号



ルクセンブルグ市：その古い町並みと要塞群
2017 年 4 月／本保 万貴子氏撮影

目 次

- 第 27 回全国女性建築士連絡協議会（東京）の報告
- オーストリア・ドイツ・ルクセンブルグ早春の旅（2）
- 新入会員のご紹介
- 3 委員会合同見学会のご案内
- 私の好きな場所
- 今後の事業予定

- | | |
|--------|-------|
| 安田 千鶴代 | 1 ページ |
| 本保 万貴子 | 3 ページ |
| 疋田 さつき | 7 ページ |
| 武市 啓子 | 7 ページ |
| 相河 真弓 | 8 ページ |
| | 8 ページ |

第27回全国女性建築士連絡協議会（東京）
安田 千鶴代



平成29年7月15日・16日、日本建築学会建築会館ホール他に於いて、第27回全国女性建築士連絡協議会が開催されました。

未来へつなぐ居住環境づくり」
— 和の空間を考える —



■ 活動報告

・北海道士会

「高校住教育講座 ～はじめての一人暮らし～」

平成14年から活動を始め、25年度からは全道の高専学校への派遣システムを構築する委託業務を行政から受託。27年度からは他団体からの助成を受け、学校側の費用負担無く引き続き、28年度までの実績は延べ35校となった。

出張講座をきっかけに、自分が全ての責任を負う空間（住戸）を想像する事により、賢い消費者（住まい手）提供者（住まいづくりの担い手）となるきっかけになってほしい。家庭科授業の住生活分野の占める割合が、どの学校を卒業しても住生活分野を履修した事になることが理想であり、担当教諭の相談窓口や実習指導員の派遣員として建築士の可能性を探る。

・宮崎県延岡支部

「ノベオカノマドハウス」

リノベーション プロジェクト

地方都市共通課題の商店街過疎化問題・延岡市サンロード：えきまえ商店街活性化の為、かつては一番栄えていた栄サンロードに有るRCビルの1階を、市民活動の拠点施設として活用する為のリノベーション プロジェクトを始める。

多くの市民活動団体を支持し市民ワークショップやイベントを企画、活動が続けることに依り地域住民の結束と完成後もキララ延岡サポーターズ（延岡支部）として活動が続けている事の報告がありました。

注）ノマドとは（延岡の窓口）と（遊牧民）という2つの意味が有る。

■ 被災地報告

- ・岩手県士会：かまいし未来のまちプロジェクト
- ・宮城県士会：2011 東日本震災以前からそして以降女性委員が参加している活動
- ・福島県士会：被災地報告 ふくしまの現状
- ・熊本県士会：熊本地震における九州ブロック
- ・佐賀県士会：青年女性協議会の取組み
- ・鳥取県士会：鳥取中部地震状況報告



【宮城県士会報告】



【福島県士会報告】



【熊本県士会報告】

被災された皆様の一日も早い復旧復興を願っています。

■ 基調講演 和の空間を考える

— 居住空間にとっての美とは何か —



博物館明治村館長

早稲田大学名誉教授 中川 武 氏

1. 日本の家：住まい方、住まいの空間において失われていく懐かしさと変容しつつ積層されてきたものの意義について〈境界空間〉、〈仕切り〉、〈場〉、〈部位〉、〈しつらえ〉、〈素材〉、〈象徴〉の個別事例
2. 日本住宅史の流れ
3. 日本建築（住宅）の生産史的展開
4. 世界史の構造と居住空間様式の生成と創造の関係

■ 分科会

A分科会「防災への取り組み」たてもの防災探検隊

B分科会「地産地消の住まい」地松プロジェクト

C分科会「歴史的建造物と建物再生」亀山関宿保存活用

D分科会「環境共生住宅」六帖軒：シックハウスからの開放

E分科会「自治体連携とまちづくり」士会と氷見市

F分科会「子どもと住環境」子ども建築学校

G分科会「高齢社会と住まい」安心安全やすらぎの家

H分科会「既存ストックの活用」住み継ぎの作法

C分科会「歴史的建造物と建物再生」に参加して

コメンター：中浦 豊子氏（三重県建築士会）

NPO 法人 亀山文化資産研究会の歩み（現会員 14 名）

三重県亀山市、鈴鹿市での 10 年に及ぶ地域密着の様々な活動をとおり、亀山の重要伝統的建造物群の関宿の中で特定以外の建物の調査、図面化の手伝い。重伝建地区の細部意匠を調査、図面化。

国登録有形文化財である現役の白川小学校の魅力を伝えるため公開講座を 3 年続けて開催。

関宿内における改修工事設計・施工に係わり、工事中や完成時に見学会を開催し、取り壊される歴史的な建造物の調査・記録保存など業務として引き受け、亀山、鈴鹿市内の歴史的な建造物を国登録有形文化財として発掘。

「歴史的な文化遺産を発掘し、保存し、活用してまちづくりに生かす能力を持った人材」であるヘリテージマネージャーとしての研鑽を重ね、「歴史的建造物の保存、再生、活用」の活動報告と質疑応答、意見交換が活発に交わされた。





フープ 89 号に掲載した旅行記オーストリア編に続くドイツ編。日程は、4 月 5 日にベルリンへ飛び、2 泊。7 日(金)午後ハンブルグへ、翌 8 日(土)午後ド

ュッセルドルフに寄り道しケルンに 2 泊。10 日(月)ルクセンブルグに入国し、11 日(火)夜にフランクフルトからソウル経由で 12 日(水)に帰国した。

で、5 日にウィーンで遊んだ後、友人 Mo と Ma は 20:00 発の LCC EasyJet でベルリン(Berlin・伯林)に向かう。LCC は 50€ だったので日本の LCC と変わらない。シュネフェルト空港 21:30 到着。この空港は、現在のテーゲル国際空港が手狭(実際、首都の国際空港とは思えない小ささだけど好きな空港)なので、シュネフェルト空港に国際空港機能を移設し、新にブランデンブルク空港に変えようと工事を続けている。当初 2014 年完成予定が 2016 年まで延期され、でもまだ完成せず、ドイツのお荷物となっている強者。あちこち工事をしているから空港からの足も不便。宿泊場所は駅近をモットーに決めるので、予約したアパートメントは Uバーン(地下鉄)駅から徒歩 5 分だが郊外の住宅地にあり、到着が 11 時過ぎになった。でもオーナーさんはアパートの前で待っていてくれた。親切～～。

ドイツ(独語 Deutschland 英語 Germany・独逸)は面積が日本の 94%程、北にデンマークとバルト海と北海、西にオランダ・ベルギー・ルクセンブルグ・フランス、南にスイス・オーストリア、東にチェコ・ポーランドと 9 カ国に接している。南ドイツのミュンヘンでも札幌より北にあり、南にアルプス北に海があるので、南北で約 800 km あるも気温差は小さい。

ベルリンはドイツの北東部にありポーランドまで 85 km 程。Mo が初ベルリンなので 3 度目の Ma が観光案内。まず、18 世紀ドイツ古典主義の傑作で統一ドイツの象徴ブランデンブルク門に近いドイツ連邦議会議事堂に向かう。日本で 8:30 の事前予約がしてあったが、Uバーンで反対方向の電車に乗ってしまい

見学受付場所に 9 時過ぎに到着。見学は無理かと半分あきらめていたが入れた。ドイツ連邦議会議事堂は、旧帝国議会議事堂を東西ドイツ統一後 8 年間か



けて内部を大改修し、1999 年に完成。改修設計はイギリス人建築家ノーマン・フォスター氏。1990 年 10 月のドイツ再統一

記念式典が修復前の正面玄関で行われたのを日本でテレビ放送されたのでご覧になったと思う。19 世紀に建てられた重厚な石造りの屋上にできたガラス張りの中央ドームが見学できる。ガラス壁に沿って見学通路が二重らせん状に上昇し、ベルリン市内を一望できる。2008 年に初めて見学したときは事前予約



も不要で、ドーム中央のガラス床からは眼下の議場が覗けたが、今は手すりに案内板が取り付けられ見えなくなっていた。

その後は、お決まりの観光。世界遺産の博物館島に向かい、ペルガモン博物館とノイエ(新)美術館に入場。ここはご存じの方も多いと思うので詳細は省くが、ペルガモンは古代ギリシャの大祭壇や門をそのまま再建展示され、博物館の中に古代建物がすっぽり収まっていて圧巻。遅い昼食は、ポツダム広場のソニーセンターで。この辺りは、ベルリンの壁際



だったので開発から取り残されていたが、統一後最初に建築ラッシュになった。ドイツ鉄道本社やコルホフビル、映画博物館など見ものの建築物が多い。夜は、Mo のベルリン

の友人と三人でタイ料理店に出かけた。何でタイ？でもベルリン市民の人気店らしく美味しかった。

翌日は、ベルリン中央駅に荷物を預け、Mo が美術館を巡りたいとのことで、11 時まで別行動。ジャンダルメンマルクト、ベルリンで一番美しいらしい広場を見た後、2010 年 12 月に見に行ったが雪が深くてほとんど見えなかった世界遺産「ベルリンのモダニズム集合住宅群」の一つ、グロース・ブー・ドルグ・ブリッツ・フー・ア・ゼン・ブー・ドルグ (Großsiedlung Britz-Hufeisensiedlung) という長い名前のアパートに再度行った。世界遺産になった集合住宅群は、機能的な間取りの割安な住宅を供給する目的で、市内 6 カ所に 1913 年～1934 年に建設されたもの。設計はブルーノ・タウト、ハンス・シャローン、マルティン・ヴァーグナー等。見に行った長い名前の住宅は、ブルーノ・タウトが手がけたもの。ベルリン中央駅から U バーンで 20 分、徒歩 10 分の所。地下鉄の駅から真南に歩いて行くと、延々と続く外壁に出会う。



左上の写真は、見にくいが上空からの写真。中央に馬蹄形の住宅があり、その周囲にカニの足のように長い住宅が配置されている。どの棟も 3 階建て。右上は馬蹄形住宅の中庭。芝生にはブルーノ・タウト記念碑が建っている。下の 2 枚は住宅の外観。すでに建設されて 80～100 年だが、手入れが行き届いて、長年住み続ける人も多く競争率が高いらしい。



Mo と再会後、昼食は大好きなカリーブルストにした。焼きソーセージにケチャップとカレー粉をかけた物で、ベルリンは本場で元祖なので特に美味しい。

午後は、二人旅最後のベルリンの壁探索に向かう。旧ドイツが東西に分断された時、首都だったベルリ

ンも東西に分断され、西ベルリンは東ドイツの中の離れ小島だったので西側に脱出する東ドイツ人を封鎖するため、東ドイツは、市の境界線すべてに一夜で壁を構築。1989 年 11 月 9 日、この壁を東ベルリン市民が崩壊させたことはご存じの通り。記念に残した壁に絵が描かれて 30 年近く経ち、かなり書き替えられたようだが「富士山」や「兄弟のキス」は健在。このギャラリー周辺は、最後の開発地として建築工事ラッシュである。

中央駅に戻り、Mo と別れる。

いよいよ Ma の一人旅開始。前日にドイツ鉄道 (DB) のジャーマンレイルパスに Validating Stamp (使用承認印) を押印済なので、発車時刻まで久しぶりの中央駅を探索。ジャーマンレイルパスは、ヨーロッパ鉄道パスの一つで、旅行前に日本で手に入れる。ドイツ国内の DB, S バーン (近郊電車) に有効で 1 等と 2 等がある。特急券込みだから乗り降り自由。駅で切符を買う必要がないので愛用している。座席指定が必要な ICE スプリンター等以外は、座席に表示される指定券発行区間以外なら自由に席に座れる。

ベルリン中央駅 (Berlin Hbf.) は、2006 年 5 月のサッカーワールドカップ開催に合わせて開業。地上 3 階地下 2 階建てで、ホームは 3 階と地下 2 階にある。国際高速長距離列車 ICE, IC, RJ などや快速列車 RE・普通列車 RB, S バーン, U バーンが発着する。U バーンは地下 2 階、S バーンは地上 3 階に決まったホームがあるが、それ以外は、行先別にホームも位置も決まっていないので掲示板で事前に確認が必要。ホームの位置というのは、日本では 1 つのホームに 1 編成が停車し行き先方面も決まっているが、ヨーロッパではホームが長く、多いときで行先の違う列車 3 編成が同じホームから前後して発着するので、乗る列車の停車位置 (セクター) が重要。ホーム上に A, B, C, … と掲示されているので必ず確認を。RE や RB の後ろに ICE が停まっていたりする。列車の乗り間違い事件は多々あるが、それは別の機会に。

ベルリンを定刻 14:39 の ICE でハンブルグに向かう。ハンブルグ (Hunburg) 中央駅着 16:21。ホテルは、セントロホテルハンブルグのシングルだったが、非常に狭くてスーツケースを空けておく場所もなく、

荷物の出し入れに苦労した。まだ外は明るいので、Uバーンに乗って聖ミハエル教会にご挨拶。17:30の閉館ぎりぎりだったが、夜にコンサートがあるとまで追い出されなかったが、塔には上れなかった。

翌8日(土)は、今回の旅行目的の一つ、ザ・エルプ・フィルハーモニー・ハンブルグに向かう。コンサートホールが入った複合ビルで今年1月11日に開館したばかり。ハンブルグ港(北海からエルベ川を100 km遡った河川港)の中州に新しく開発されたハーフェン・シティの端に建っていて、近くに世界遺産「煉瓦造り倉庫街」がある。設計は、北京オリンピックスタジアムを手がけたスイス・バーゼルへのルツォーク&ド・ムーロン(Herzog & de Meuron)設計事務所。ホールの音響設計は、永田音響設計の豊田泰久氏。高さ110m。世界遺産の煉瓦倉庫の高さと



同じ地上から37mまでは外壁に煉瓦調タイルを貼り、その上に波をイメージした屋根形状のガラス張りの箱が載っている。遠くから見ると、中州に浮かぶ船のようなが、真下からしか写真が撮れなかったので、パンフにあった断面図をコピーした。左下にエント



ランスがあり、そこから37mにある展望プラットフォームまでチューブという進入路を長〜

等がある。この建物は「皆のための建築」というコンセプトがあり、展望プラットフォームには出入り自由である。この階には吹きさらしの展望プラットフォームがぐるりと一周していて、その内側にガラス壁で仕切られた、コンサートホールやホテルのエントランス、ショップ等がある。その階より上部中央に6層のコンサートホール、左側にホテル、右側にアパートメントが入っている。

この後、ハンブルグ中央駅で地下鉄を乗換え、ハーフェン・シティを見に行った。この新開発地は建



築ラッシュで、見学者のバスが多かった。

この日は、ハンブルグ中央駅を12:46のIC2311で発ち、16:27に初めてのデュッセルドルフに着く。



すぐにライン河畔にあるハンス・ホライン設計のK20 州立美術館に行くが、時間切れで入館できず、

メディアエンハーフェン地

区に向かう。ここはかつてライン川の河川港だったエリアをメディア地区

として再開発。フランク・O・ゲイリー等が斬新なビルを建設。最近の再開発は、余り使われなくなった大河の



港周辺に多い。ハーフェン(Hafen)とは港のこと。デュッセルドルフは、多くの日系企業がヨーロッパの拠点にしているため日本料理店が多く、夕食をと思っていたが、宿泊地のケルンに向かう。

ケルンまでICEで25分。ケルン中央駅すぐ前の大聖堂Domを眺められるホテルだが、部屋からは見えず、また周辺には中東系の店が増えていて、フロントも明らかに中東人で、こちらの頼りない英語も独語もなかなか通じず苦労した。難民政策の影響か？

翌9日(日)は、これも目的の一つ、ケルン近郊のフロイデンベルグ(Freudenberg)に行く、この町には、ケルン 8:23 発の RB でジーゲン(Siegen)まで約 90 分。その後バスで 30 分かかる。ジーゲン駅前でバスを待っていたら、福岡から一人旅のおばさまに出会い一緒する。フロイデンベルグ保養公園下 10:53 着。この町はモノトーンの木組みの館が並び町並みが美しいので、以前から一度行きたいと思っていた。町並みが見渡せる保養公園は、お天気に恵まれ桜が



咲いていて気持ち良かった。ドイツ中央部ハルツ地方やメルヘン街道の木組みの建物はカラフルでかわいいが、モノトーンの町並みは初めて見る。17 世紀からそのまま保存されているようだが、なぜグレーの屋根に白壁で木組みを黒くしているのか、よく



分からない。町中に入ってみると、200m 四方ぐらいの広さで、3 本の通りに集中していた。この一角に 2 つあるホテルの一つの中庭で、コーヒータイム。お昼をと思ったが意外と高くて、やめた。

ジーゲンでおばさまと別れ、Ma は一旦ケルンに戻り、S バーンでブリュール(Brühl)にある世界遺産「アウグストゥスブルク城」を見る。華麗なロココ様式の宮殿。12~1 月は閉館しているのでやっと見学できた。城の内部はガイドツアーのみ。

ケルンに戻り市内散策。まずは世界遺産のケルン大聖堂に挨拶。建設は 13~19 世紀までの 600 年余りかかった。ゴシック建築では世界最大で、157m という高さは、さすがに大迫力でカメラに収まらない。

前回、南塔に上ったので今回はパス。内部のステンドグラスと祭壇画を拝んだ。夕食は久しぶりにレストランへ。ビールを飲めない Ma は、一人の時はほとんどレストランに入らず、簡単に済ませるが、前回の時に飲んだケルンビールというケルンの地ビール(ドイツはほとんどが地ビール)が忘れられず、同じレストランに入った。美味しかった。

夜 8 時を回っていたが、コロンバ美術館やルートヴィヒ美術館の周辺、ライン川に架かる DB の鉄橋をブラブラ。日曜の夜なので人出が多く賑やかだった。

実は、ケルンとデュセルドルフの間のノイス郊外にある、アートと自然の共生をテーマにしたインゼル・ホンブロイヒ美術館と安藤忠雄氏のランゲン美術館に行くつもりだったが時間切れで次回送りに。

10 日(月)は、9:21 発 RB で国境の町トリーアへ。この路線は景色が良く、ゆっくりと鈍行列車を楽しんだ。トリーア着 12:27。国境を越えるので鉄道パスを使わず、駅でルクセンブルグ行きの切符を買う。約 50 分でルクセンブルグに到着。この国で 50 カ国目。今回は世界遺産「旧市街と要塞群」だけを観光。ルクセンブルグは東京都より少しだけ広い小国なので 1 日観光で十分と思っていたが、EU の機関が集まるキルシュベルク地区はじっくり見たかった。公用語がフランス語・独語・ルクセンブルグ語だが、隣国ベルギーやフランスからの労働者が多いようで、英語や独語より仏語の方が通じる。ノートルダム大聖堂では、行儀の悪い中国人団体に遭遇し、同じグループに間違われ、怒られて困った。

11 日(火)は帰国のため、トリーア発 9:31 の RB でコブレンツへ。コブレンツまでのモーゼル川沿いは、ワインの産地で有名な一帯。ブドウ畑が続き景観がすばらしい。ドイツはビールで有名だが、それは緯度が高くブドウの北限が南西部のこの辺りまでのため、他の町ではビールとなったため。

コブレンツから 13:53 発ライン川左岸を走るローカル列車でフランクフルトへ。ライン川の傍を走るので景色がすばらしく、好きな路線である。

以上が Ma の旅行記である。退屈な話だったと思うが、「百聞は一見にしかず」で実際に出かければ？

新会員紹介

建築設計事務所 senses+ 疋田 さつき



昨年度、独立を機に奈良県建築士会に入会させて頂きました建築設計事務所 senses+ (センシスプラス) の疋田さつきと申します。

これまでは、坂本昭・設計工房CASAで22年半、一社員

として、住宅を中心に体育館や庁舎の公共建築等を経験させて頂きました。個の建築と公の建築の創り方は少し違いますが、共通しているのは、建築を通して「人」に幸福感をもたらすことができるか...それが社会貢献につながるか...というところではないかと感じております。

建築は、「個」または「公」であっても、人の動きを導きます。人が動くと同時に、期待感や楽しさ、安らぎなどがもたらされる、人の心に響く空間づくりを目指し、常に、創る楽しさと責任を持ちながら取り組めたらと思います。

事務所名に入れました「senses」とは英語で五感ですが、それらの感覚に+α、目にはみえなくてもその先にある、その方やその場所に必要とされるもの、ふさわしいものを、感覚や空気感を含めて創る～をテーマに名付けました。小説や音楽、書や絵画、無から生まれるものには創り手の人間性が現れるように、建築にも同じ側面があると思います。

いつもピュアな精神で、しかしながら様々な経験を重ね、人として成長していかなければと思うばかりです。人との交流を重ね、学び、建築はもちろんのこと、建築以外の文化や芸術を体感することで、人間味を深くしていくことができればと思っております。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

3 委員会合同見学会のご案内

武市 啓子

今年度も3委員会(教育・事業委員会／青年委員会／女性委員会)合同の見学会が開催されます。今回の行き先は富山県です。歴史的建造物から今年完成したばかりの建物まで、多様な建造物を見学します。

まず、初日は禅宗の瑞龍寺(国宝・重文)から、高岡市伝建地区・山町筋で土蔵造りの町並みを見学します。翌朝は、世界で一番美しいと言われているスターバックスコーヒー富山環水公園店、その後、今年平成29年8月26日に全館オープンしたばかりの富山県美術館(設計：内藤廣氏)、平成27年オープンの富山市ガラス美術館(設計：隈研吾氏)など最新の建築を巡る旅になります。詳細は、同封しておりますチラシをご覧ください。

今回も見どころ満載な1泊2日となっております。皆さま奮ってご参加ください。多数のお申し込みをお待ちしております。

■日 程 平成29年9月23日(土)～24日(日)

■見学先

【1日目】 高岡山瑞龍寺(国宝・重文)



高岡市美術館



高岡市伝建地区・山町筋
(土蔵造りの町並み)



富山県水墨美術館

【2日目】 スターバックスコーヒー

富山環水公園店



富山県美術館
(設計：内藤廣氏)



富山市ガラス美術館(設計：隈研吾氏)



高志の国文学館

私の好きな場所

相河 真弓

肩の力がスッと抜け自然体で居られる。何時までも特に何をするでも無く居られる、そんな場所が好きです。

心地よい良い風が吹き、木々の葉を透かし、優しい陽の光が揺れている。見上げると、刻一刻と変化する青空があり、耳をすませば、小鳥たちのさえずりが何処からともなく聴こえてくる。日暮れと共に町並みは風景に溶けてゆき、そこに人々の暮らしがそっと息づく。

奈良には沢山そんな場所があると思います。私が奈良で暮らし始めて、最初に見つけた好きな場所は、慈光院本堂前の縁です。緋毛氈に座り広い庭園の景色を見ながら頂くお抹茶も格別なのですが、その後本堂前の縁に座り、ぼーっと中庭を眺めている時は心が安らぎます。そのほかにも・・・

法隆寺西院伽藍の北側に位置する大講堂から振り返ると、左に金堂、右に五重塔と大きな空だけが見える1400年前の古人と同じ景色を目にするあの場所。

初夏の汗ばんだ首すじを心地よい風が乾かしてくれる甘樫丘の展望台。大和三山と眼下には今も変わらない飛鳥寺を中心とした大和の町並みが見えます。

夕刻に14号線を桜井に進むと、三輪山の懷に抱かれて、何故か生まれ故郷に帰ってきたような懐かしい感情に包まれるあの車上。

早朝に息子を連れ、山麓線へ向かう途中に出会う四季折々の二上山が正面に現れるあのバイパス。

門前の町並みを抜け、境内に入り奥へ進むと、本堂から聞こえてくるお経と蓮の花が、独特の静けさ生む當麻寺奥院。

・・・どれも私の暮らすこの町で出会った風景、私の好きな場所です。

大阪生まれ、大阪育ちの私にとってこの奈良の町は、時間がゆったりと流れ、目に映る緑は多く、人々もどこかゆったりとしていて、安心して暮らせる、といった印象でした。野菜も安く新鮮で、こんな暮らしやすい所はない、とも思いました。

この数年、奈良への注目度が上がり、海外からの観光客が増え、奈良へ向かう電車の中で聞こえてくる会話も日本語以外の言語が多いです。多くの方に奈良の良さを知って頂くのは嬉しいのですが、そのために、何かを急ぎ、何かが失われないようじっくりと奈良の町が歩んで行けたらと思います。

♪♪♪ 今後の事業予定 ♪♪♪

- 8月13日(日)～15日(火)
事務局 お盆休業日
- 8月20日(日)
近建女のペーロン大会
五感で感じる木の事業(青年委員会)
- 8月24日(木)
理事会
- 8月26日(土)
歴史的建造物調査(奈良市明治地域)
- 9月 3日(日)
歴史的建造物調査(奈良市明治地域)
- 9月10日(日)
二級建築士試験(設計製図)
奈良県防災総合訓練
- 9月13日(水)
既存住宅状況調査技術者講習(新規講習)
- 9月16日(土)
歴史的建造物調査(奈良市明治地域)
- 9月23日(土・祝)～24日(日)
3委員会合同見学会・富山県
- 9月30日(土)
歴史的建造物調査(奈良市明治地域)
- 10月 8日(日)
一級・木造建築士試験(設計製図)
- 10月17日(火)
既存住宅状況調査技術者講習(移行講習)

***** 編集後記 ******

今年もまた暑い夏が来ました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

昨年の今頃は・・・、全建女(奈良)が無事閉会し、ホッとされていた頃ではないでしょうか。

あれからもう1年。月日の経つのは本当に早いものです。

本保委員長には、「早春の旅」を2回に渡りご寄稿いただき、海外の建物や町並みだけでなくプチ情報にも楽しませていただきました。お忙しい中のご協力、本当にありがとうございました。

フープでは、前号より新シリーズとして「私の好きな○○○」が始まりましたが、ご覧になっていただけましたでしょうか。今号では、相河さんから「私の好きな場所」ということで、奈良の風景をご紹介いただきました。「久しぶりに行ってみようかな」と想われた方もいらっしゃるのでは・・・。

ところで、第1回目に寺岡さんからご紹介いただきました「聴竹居」が、この5月に国の重要文化財に指定されましたね。文化庁のHPによりますと、工学的理論に基づいて設計された木造モダニズム住宅の先駆的存在として、高い意匠性および学術的価値が認められたとのこと。

引き続き、皆さまからの建物・風景・町並み・公園など、建築にまつわるお気に入りをお待ちいたしております。
暑さ厳しき折、くれぐれもご自愛くださいませ。

(奥 宏美)
